

## 看護師企画によるシンポジウム

### 遺伝がん看護をいつ学ぶか、今でしょ！

座長	釜崎 久美子	総合病院土浦協同病院 緩和ケア認定看護師
	風間 郁子	筑波大学附属病院 がん看護専門看護師
シンポジスト	村上 好恵	東邦大学 看護学部教授
	園原 一恵	茨城県立中央病院 乳がん看護認定看護師
	石堂 佳世	茨城県立中央病院 遺伝カウンセラー

近年、著名人等のがん罹患が報道され、がん患者の闘病や療養生活に関する多くの情報が手に入るようになった。がんと告白しつつ仕事を続ける人たちも増え、患者個々の生き方を支える支援が問われるようになった。このような流れにおいて、米国人女優のアンジェリーナ・ジョリー氏の予防的乳房・卵巣卵管切除の公表は、世界的にも大きな影響を与えたとされている。

ところが、わが国では同手術の保険適応の問題などもあり、遺伝性の乳がん・卵巣がんの診断・治療に関する看護について、がん看護に携わる看護師でも経験が少ないのが現状である。こうした患者は個々の患者の価値観の尊重や生活への影響など、看護に関わる重要性も大きいのであるが、乳がん・卵巣がん以外の遺伝性がんを含めても、症例数が比較的少なく、看護職がそれらの患者に対する看護を学ぶ機会は乏しいと考えられる。

そこで、今回のシンポジウムでは、遺伝性のがんとその看護についての基本的な知識を学ぶとともに、県内ではまだ症例数が少ない遺伝乳癌卵巣癌症候群の予防切除を受ける患者へのケアを共有する機会とした。シンポジストには、看護教育・看護研究者、乳がん看護認定看護師、遺伝カウンセラーの3人を招き、それぞれの立場から、遺伝性のがんを患う人と家族を支えるアプローチについて発言していただき、その学びを県内のがん医療の質向上に活かしてほしい。

企画者	角田 直枝	茨城県立中央病院 看護局長
	吉良 淳子	茨城県立医療大学 看護学科教授